水俣病裁判出張尋問

"爆薬説"を中心に追及

吉岡元社長に事情聞く

チッソの積極支持認む

加木地裁長島事務所（斎藤次郎裁判長係り）で争われている水俣病裁判の吉岡喜一元チッソ社長（七〇）＝東京都大田区田園調布、現チッソ相談役＝に対する出張証人調べは、三十日午前十時二十分から、同証人の入院先の神田友愛クリニックの人間ドック室で行なわれ、原告の患者側弁護団は、三十四年十月に会社側が有機水銀説に対する二つの反論として主張した"爆薬説"を中心に追及した。

吉岡元チッソ社長

尋問は証人が病人であるため、裁判官で行なわれた。証言録、反対尋問の弁護団が別個に証拠申請したところによると、吉岡証人は尋問に対し「爆薬説は日本化学工業協会の大島武治理事＝当時＝が提唱したものだが、チッソとしてもこれを積極的に支持し、現地調査を頼んだ」ことを認めた。この証言で原告弁護団は「"爆薬説"は漁民からの操業中止要求や、県議会答弁特別委、国会調査団による排水処理設備の早期設置勧告など、水俣病問題で追いつめられていた会社が、追及をそらすために打った策謀であることがかなり明らかになった」と評価している。

この日の尋問は、加木有機水銀説が強調される直前の三十四年九月から十一月にかけての会社側の水俣病問題に対する姿勢を中心に行なわれた。尋問内容は二月四、五日の西田証人に対する尋問内容とほぼ同様で❶会社は当時漁民から操業ストップをつきつけられていたが❷ネコ400号実験でアセトアルデヒド排水をネコに直接投与した実験で、十月七日発症を知っていたはずだ❸反論書の工場編と本社編に食い違いがあるのはなぜか――などをただした。

吉岡氏は❶については「水俣工場はチッソの主力工場で操業停止はチッソの死命を制する重大事だった」と認めたものの、❷❸については西田証人同様「知らなかった」と答えた。ただ西田証人が答えをさけていた、大島理事が爆薬説証言のため水俣を訪れた経緯については、新潟水俣病裁判で当の大島氏が述べた「チッソから"漁民が騒いでいるので現地を見てほしい"と頼まれて行った」との証言を認めた。

尋問には斎藤裁判長以下加木地裁関係六人、原告弁護団八人、被告側九人、それに水俣から上京した渡辺栄蔵さんら原告本人二十一人が三人ずつ交代で立ち会い、医師つきそいのもとで正味三時間行なわれた。午前九時前、熊本・東京の告発する会の会員約五十人が診廷時前に陣取り、立ち会いに入る患者家族を激励したり、"吉岡は真実を告白せよ"とシュプレヒコールして気勢をあげた。

三十一日は午前中原告が補充質問したあと午後から被告側が反対尋問を行なう。

病院前で気勢をあげる「告発する会」の会員たち